

# 被災住民に交流の場

岩手で支援活動・元持さん団体設立

## AMDAと連携し提供

東日本大震災で自らも被災しながら岩手県大槌町で国際医療ボラントリーアAMDA(岡山市)の現地スタッフとして活動した元持幸子さん(37)≡同町≡が、市民団体「つどい」を設立。AMDAと連携し、被災住民に交流の場を提供する活動を行っている。

「つどい」は元持さんが呼び掛け、地元住民有志8人で6月に発足。AMDAが昨年12月に町内に開設したはり・きゅうなどを受けられる「健康サポートセンター」の運営を任された。元持さんは、閉じこもりがちになることが多い仮設住宅のお年寄りらの交流を図るため、センターで料理や手芸教室を随時開



健康サポートセンターで開かれた手芸教室 (AMDA提供)

催。料理などが得意な被災者が講師を務めるなど、新たな支え合いの拠点になっている。

AMDAは、震災直後から大槌高校を拠点に医療支援活動を実施した。元持さんは仙台市内で被災した際、AMDAメンバーに出会い、「故郷の人たちを助けたい」と調整員に。

出身地の同町などで被災者らの支援ニーズを把握する活動に従事してきた。

元持さんは「仮設住宅に住む人たちが、ひとときでも楽しく過ごせる場所や機会を提供することで、地域の絆を強めたい」と意気込んでいる。

(大江恵里奈)